

老年看護学

- 1 老年看護学の考え方
- 2 老年看護学目的・目標
- 3 老年看護学の構成
- 4 老年看護学学習内容

1 老年看護学の考え方

ライフサイクルの最終段階である老年期は、人としての英知を統合して、いずれは穏やかな死を迎える段階である。高齢者の多くは経験を積み、さまざまな事に熟知している。加齢現象は身体の生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼすが、第一線を退いたとは言え、その豊富な経験と訓練によって習得された技能を身につけている。これらは若者にとって学ぶべきことが多く、また、後世に伝えるべきものである。高齢者は古くより、社会的にも様々な経験や知識によって、一定の地位を獲得しているが、特に古代から近代にかけては、医療技術が発展していなかったこともあり、高齢者になるほど希少な存在となり尊敬されていた。そして今日本の高齢者は世界大戦の混乱を生き抜き、戦後の日本を支え、経済的な成長をもたらした人たちといえる。

しかしながら日本は1970年に高齢化社会に、1994年には高齢社会になり、2007年に超高齢社会へと突入し、今後もさらに高齢者率は高くなると予測されており2060年には約40%に達するという見通しもある。高齢化はサービスを必要とする人口の増加を招き、核家族化・独居高齢者の増加・認知症の増加・家族介護力の低下・老人の虐待の発生など社会問題を生み出した。日本の高齢者政策は1982年に老人保健法が制定され、医療事業や保険事業を無料から有料に切り替えられた。しかし、人口の高齢化はさらに進み、福祉の適応範囲を減らしたにも関わらずまたもや財政上破綻をし、従来老人福祉法、老人保健法の管轄であった介護部門を別の財源で行うとし、介護保険法が制定された。徐々に国民が負担する体制へと変化してきている。それでも高齢者の医療難民や孤独死の問題など、まだまだ社会制度の不備が指摘されている。

老年看護を学ぶ学生は若者が大多数であり、核家族化された社会で成長した看護学生は高齢者と接する機会が少ない。また、現代は若者中心の文化であり、高齢者を尊重し、人生の先輩として尊敬や畏敬の念を抱きにくい社会環境にある。一方で高齢化の進んだわが国では病院でも地域でも看護の対象は圧倒的に高齢者が多い。そこで老年看護学では、高齢者の生きてきた社会背景、生活実態、加齢に伴う諸機能の変化、取り巻く環境、個人差等の特徴を学び、高齢者の生命と人格を尊重できる学びとしたい。高齢者にとっての最適な健康とは、健康レベルや生活の自立度は様々であっても本人(家族)が望む日常生活を実現することである。そのため日常生活能力維持増進、疾病の予防(恒常性機能の低下)、疾病の回復、苦痛緩和への援助、そして高齢者の抑制や虐待など権利や擁護について学ぶ。又介護を行う家族の介護負担(ストレス)が及ぼす影響等について学び、安全な生活が送れるような看護の在り方を学ぶ。

さらに超高齢社会の保健医療対策の現状、課題と対策を考察し、高齢者を取り巻く社会等から対象を理解し、高齢者の健康課題とその家族のQOLを高めるための支援のあり方を学ぶ。

老年期にある人の特徴

- 1 高齢者は加齢に伴って、身体的・精神的・社会的機能が変化しながら、ライフサイクルの最後の時期を過ごしている。
- 2 老年期は身体的諸機能の低下(加齢現象)、精神活動の停滞、社会生活の低下が現れ、衰退期・喪失期とみなされるが、生活環境と大きく関連し個人差は大きい。
- 3 老年期は人生のまとめ、死を受容する時期であり、老年期の発達課題を持っている。

- (1) 衰えつつある体力や健康に適応する。
 - (2) 引退や収入減少に適応する。
 - (3) 友人・配偶者の死に遭遇する。
 - (4) 同年輩の人々と親密な関係を築く。
- 4 長い人生経験の中から、その人の価値観・考え方が築かれている。個別のライフサイクルを持っており、長い人生の中で社会に貢献し、他者に認められ、必要とされているという自尊心を持っている。
 - 5 加齢に伴い人生の終焉と日常生活の自立を失う危機に直面しつつ、老いを受け入れて、希望を持って積極的に老年期を送る努力をしている。
 - 6 社会的には、核家族化が進む中で、定年を迎え、労働機会や社会活動の狭まりなどによって、孤独を経験する。

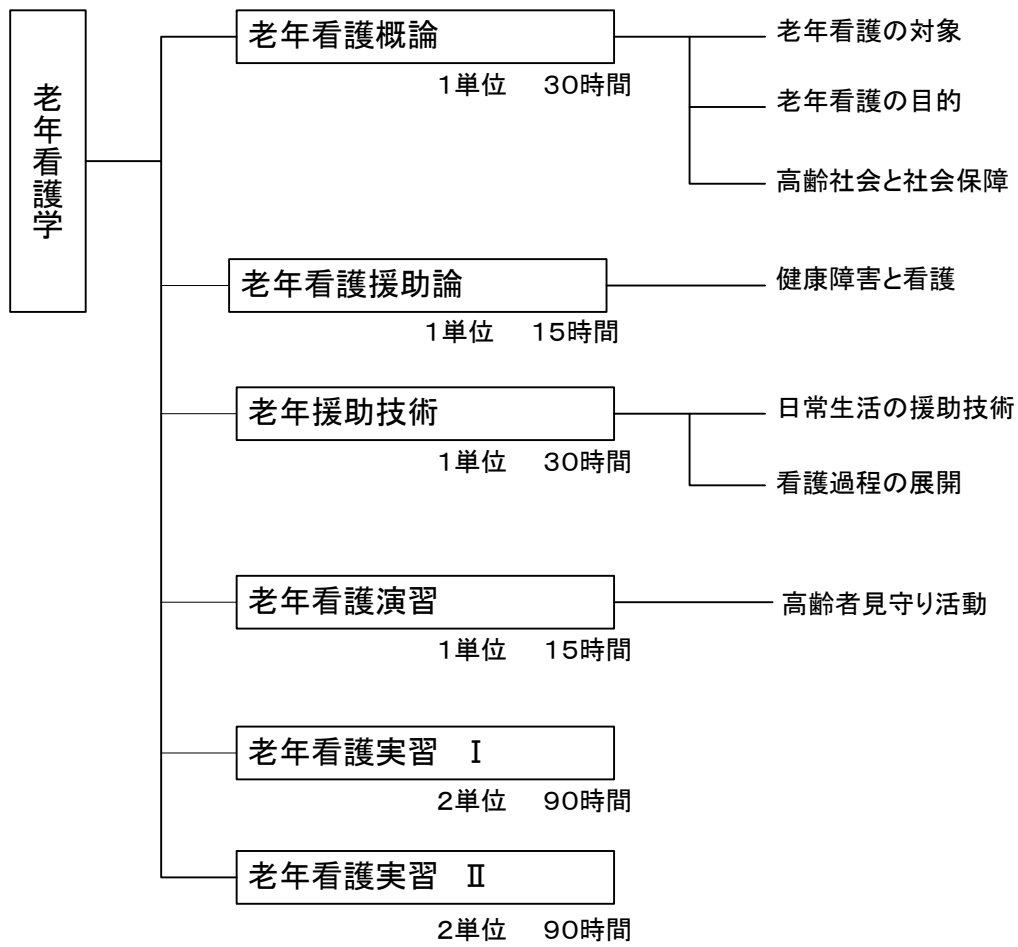
高齢者の健康問題

- 1 加齢現象に伴い病気や障害が起こりやすくなり、活動性が低下して徐々に日常生活活動が困難になる。さらに生理的機能の低下は慢性疾患を誘発しやすくなる。
- 2 高齢者がなんらかの疾病や障害を抱えたときは、予備力が低下しているので、臓器の変化が単に部分的な変化にとどまらず、廃用症候群を起こしやすくなり、日常生活機能全般にわたって変化をもたらすことが少なくない。床上安静に伴う寝たきり、失禁、認知症の発生が考えられる。
- 3 高齢者は、複数の疾患をもっていることが多く、病気は慢性化しやすくなり、病気と付き合いながらの生活を余儀なくされることが多い。
- 4 生きがいや役割の喪失、家庭内の孤立、身体の不自由な状況で迷惑をかけたくないという気持ちがうつ状態を招くこともある。

2 老年看護学目的・目標

- 目 的 老年期にある対象と家族及び支える人々を理解し、老化に加え慢性疾患をかかえる高齢者に対して、最適な、望ましい状態を最大の回復像ととらえ、その回復像を目指して生活を整え、支援し、加齢と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
- 目 標
- 1 ライフステージのなかの老年期の身体的・社会的・心理的变化を理解し、老年看護の対象を理解できる。
 - 2 社会構造の変化・高齢化に伴う対象の保健・医療・福祉の場における現状と課題が理解できる。
 - 3 老年期の健康とQOLについて理解を深め、高齢社会における老人看護の役割、機能について理解できる。
 - 4 加齢と機能低下がもたらす生活への影響を理解し日常生活の援助方法を修得する。
 - 5 健康を障害された高齢者とその家族に対して健康問題を総合的にとらえ、看護過程を展開する。
 - 6 老年期にある人を成長発達しつづける存在としてとらえ、ひとりひとりの生命と人格を尊重する態度を養う。

3 老年看護学の構成



4 老年看護学学習内容

科目名	老年看護学概論	単位数	1 単位	30 時間
科目区分名	老年看護学			
開講期	1 年次 後期			
教員名	辻 玲子			

授業概要：老年看護学概論では、人口の高齢化に伴うめまぐるしい社会の変化に目を向け、老年期にある対象の特徴、老年者とその家族の健康とQOLを高める看護の機能と役割を学ぶ。

- 到達目標：1 ライフサイクルのなかの老年期の身体的・社会的・心理的变化を理解し、老年看護の対象を理解できる。
- 2 社会構造の変化・高齢化に伴う対象の保健・医療・福祉の場における現状と課題が理解できる
- 3 老年期の健康とQOLについて理解を深め、高齢社会における老人看護の役割、機能について理解できる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義
2	老年期を生きる人の理解（時代背景）	講義
3	高齢社会と社会保障（わが国の高齢化・世帯・健康・くらし）	講義
4	介護保険制度	講義
5	高齢者疑似体験・(身体的加齢変化)	演習
6	高齢者疑似体験・(身体的加齢変化)	演習
7	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義
8	高齢化社会における権利擁護（差別・虐待・拘束・権利擁護の制度）	講義
9	老年看護学の変遷（老年看護の目ざすもの）	講義
10	終末期における看護ケア	講義
11	地域資源を活用した看護の展開	講義
12	介護家族への看護	講義
13	高齢者と医療安全	講義
14	高齢者と災害看護	講義
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100点

テキスト 老年看護学（医学書院）

老年看護 病態・疾患論（医学書院）

参考書

科目名 老年看護援助論 単位数 1 単位 15 時間
 科目区分名 老年看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 木村 京子

授業概要：高齢者は、症状が非典型的であることで、身体的徴候がとらえにくく、要因が複雑に絡み合っているために身体的徴候が慢性的に経過しやすく生活に障害をきたしやすい。又加齢とともにあらわれる主要な徴候としては身体的なものばかりでなく心理・精神的な変化にも目を向ける必要がある。高齢者の加齢に伴う生理的な変化や心理社会的影響をふまえ、身体的、心理的・精神的な特徴を理解し的確な看護上のアセスメントと看護について学ぶ。

到達目標：高齢者の身体的、心理・精神的な主要徴候を理解し、加齢に伴う生理的变化、社会的影響をふまえた健康逸脱からの回復を促す看護の視点から、アセスメントと援助について学ぶ。

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かして臨床で経験した事例を教材化し、老年期にある対象者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴や老年期に見られる特徴的な疾患や症状を挙げ、検査・治療に伴う看護を学ぶことができる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	高齢者にみられる身体症状とアセスメント（痛み、痒み、脱水）	講義
2	高齢者にみられる身体症状とアセスメント（嘔吐、浮腫、倦怠感）	講義
3	褥瘡	講義
4	パーキンソン病、パーキンソン症候群の看護ケア	講義
5	認知機能の障害に対する看護（うつ、せん妄）	講義
6	認知機能の障害に対する看護（認知症）・治療を必要とする高齢者の看護	講義
7	寝たきりの高齢者の体位変換、体圧を感じる、背抜き・尻抜き・踵抜き	演習
8	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 老年看護学（医学書院）
 老年看護 病態・疾患論（医学書院）

参考書

科目名 老年援助技術 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 老年看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 吉田 昌 櫻井 貴恵

授業概要：高齢者に起こってくる身体的変化・日常生活の特徴について、食生活、排泄、運動、休息、清潔について理解する。また摂食障害、排尿パターンの変調、活動性の低下、睡眠障害、清潔・入浴にみられる身体の変調について身体的・精神的変化や疾患・環境などとの関連から学び、生活リズムを回復するためのアセスメントをどのように進めたらよいか、またどのような配慮が必要かについて考え、具体的な援助方法を学ぶ。

健康を障害された高齢者とその家族に対して健康問題を総合的にとらえるための学習である。高齢者の健康障害・疾病のあらわれ方の特徴や、診断、治療過程について理解し看護援助の具体的方法を学習する。

- 到達目標：1 高齢者の食生活、排泄、運動、休息、清潔について、身体的・精神的変化や疾患・環境との関連をふまえて理解する。
 2 健康を障害された高齢者のADL自立の為のアセスメントが理解でき、看護援助の具体的な方法の計画立案ができる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	日常生活を支える基本動作	講義
2	転倒・廃用症候群のアセスメントと看護ケア	講義
3	高齢者の食生活（栄養ケア・マネジメント含）・摂食障害のアセスメントと看護ケア	講義
4	高齢者の排泄・排泄障害のアセスメントと看護ケア	講義
5	高齢者の清潔と看護ケア	講義
6	高齢者の生活リズムのアセスメントの看護ケア	講義
7	高齢者のコミュニケーション（失語症、構音障害含）アセスメントと看護ケア	講義
8	高齢者のセクシュアリティ・社会参加への看護ケア	講義
9	看護過程の展開 事例提示（複数の症状を併せ持ち、安静が必要な高齢者） 症状に合わせ、高齢者の発達課題を配慮し、生活背景を尊重した看護を展開する	講義 演習
10		講義 演習
11		講義 演習
12		演習
13		演習
14		演習
15	まとめ 筆記テスト・看護過程一式提出	

評価方法 筆記試験 70 点
 提出物（看護過程一式）30 点

テキスト 老年看護学（医学書院）
 老年看護 病態・疾患論（医学書院）

科目名 老年看護演習 単位数 1単位 15時間
 科目区分名 老年看護学
 開講期 1年次 後期
 教員名 木村 京子 尾形 洋子

授業概要：隣接する団地に居住する高齢者宅へ訪問しコミュニケーションをとり日常生活の様子・身体状況・精神的状況を理解する。

- 到達目標：1 対象者と老年期の特徴を踏まえてコミュニケーションがはかれる。挨拶、礼儀、適切なあいづち、話の受け止めと確認、理解したことを伝えるための表現ができる。
 2 日常生活の様子を理解できる。(食事、活動、衣生活、清潔)
 3 自宅の住環境と安全について考えることができる。(つまずく原因や転倒の可能性)
 4 加齢現象(耳が聞こえづら、目が見えにくい、もの忘れをする等)が生活に及ぼす影響を考えることができる。
 5 対象者の興味や関心を知って高齢者の心理や社会背景を考えることができる。
 6 健康管理の様子や通院の状況について知り、高齢者を取り巻く社会について理解できる。
 7 季節の変化と生活への影響について考えることができる。
 8 家族との交流の様子を知り、心理的側面を考えた態度で接することができる。

実務経験の概要：看護師 臨床経験

実務経験との関連：実務経験を活かして、隣接する団地に居住する高齢者宅への見守り活動という学生の経験を教材化し、老年期にある対象者の生活への理解を深め、さらに高齢者とのコミュニケーション技術を習得できる授業をする。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	演習の目的、内容、方法のオリエンテーション、訪問先の決定、訪問先への挨拶	講義
2		演習
3	訪問による見守り活動、訪問記録記載	演習
4	訪問による見守り活動、訪問記録記載	演習
5	訪問による見守り活動、訪問記録記載	演習
6	訪問による見守り活動、訪問記録記載	演習
7	発表会 まとめ	演習
8		

演習計画

対象 原市団地に居住する介護予防を必要とする独居高齢者(承諾の得られた家)
 上尾市が基本台帳チェック表に基づき選定した特定高齢者候補者

方法 1) 訪問による見守り活動(30分)
 期間 9月～3月の間に訪問
 2) 毎回訪問記録をまとめる

評価方法 訪問記録 終了時のレポート

テキスト 老年看護 病態・疾患論(医学書院)

老年看護学実習

実習目的

老年期にある対象の特徴を理解し、加齢現象および健康障害による問題を把握し、QOLを踏まえた個別的な看護が実践できる能力を習得する。

実習目標

- 1 高齢者の特徴を踏まえ、地域で生活している老年者の日常生活を理解する。
- 2 対象の日常生活行動、健康状況を把握し、日常生活行動レベル低下に対する対象の健康の保持・機能障害予防のための日常生活援助ができる。
- 3 老年期にある病者の機能障害の複雑さ、多様性を理解し、機能障害レベルに応じた援助ができる。
- 4 対象の生活能力の低下や機能障害に対し、家族が支援できるように援助できる
- 5 高齢者との関わりを通して、人生の先輩として敬う態度を学び、自己の老年観を深める。